

及

及(𠂔)は、人(亻)と又(又)の合字です。人(亻)は人の象形、又(又)は手の象形です。前に行く人をうしろからつかまえてとどめようとする形の字です。“追いおよび”のが本義

で、“手がとどく”ことから“ひきよせる”の意味に使われます。追及。普及。及第。

汲は、“ひきよせる”意味の及と水とで、“水をくむ”意味を表わした会意形声字です。汲水ポンプ。井戸のつるべで水汲みをする時は、汲むのとあけるのと引き続いて次々と忙しく続くので、“忙しい様”を「汲汲」と言います。

吸は、“口で物をひきよせる”という意味で“すう”ことを表わした字です。すえば、物が口にひきよせられるから、口と及とで、“すう”ことを表わしたのです。呼吸。吸収(すいとる)。吸入。

笈は、“うしろからおう”意味の及で“背負う”意味を表わし、竹(竹)は、竹製の箱(箱が元来竹製のはこ)を表わし、“書物を入れる背負い箱”のことを表わしました。(木製の負い箱は板と書きます)。他郷に勉強に出ることを「笈を負う」というのは、他郷に遊学する者はこれに書籍を入れて旅立ったからです。

扱は、“ひきよせる”意味の及に、さらに手(扌)を加えて、“物を手で取りあつかう”意味を表わしたものです。

級は、“品分けされた糸”が本義ですが、今では、糸に関係なく、広く“品分け”“順序だて”という意味に使われます。はた(織機)を織るには、糸を品分けし、順序立てておいて、扱いやすいようにしておかなければなりません。そこで、“とり扱う”意味の及と糸とで、“品分けされた糸”という意味を表わしたのです。

急は、追及の意味の及と心とで、“追及する時の心”つまり“いそがしい”気持を表わしたものです。𠂔は及の変形したものです。